

令和7年白老町議会総務文教常任委員会協議会会議録

令和7年6月20日（金曜日）

開 会 午後 3時00分

閉 会 午後 3時33分

○会議に付した事件

協議事項

1. 白老町立小中学校適正規模適正配置の方向性について
-

○出席委員（6名）

委員長 貳又 聖規 君

副委員長 森山 秀晃 君

委員 長谷川 かおり 君

委員 佐藤 雄大 君

委員 前田 博之 君

委員 広地 紀彰 君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名

学校教育課長 富川 英孝 君

学校教育課指導主幹 栗田 悠 君

学校教育課主査 加藤 肇 君

○職務のため出席した事務局職員

事務局長 本間 弘樹 君

主 幹 小山内 恵 君

◎開会の宣告

○委員長（貳又聖規君） ただいまより総務文教常任委員会協議会を開会いたします。

（午後 3時00分）

○委員長（貳又聖規君） 本日の協議事項は、白老町立小中学校適正規模適正配置の方向性についてということであります。学校教育課の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速であります、学校教育課のほうから説明をよろしくお願いいたします。

富川学校教育課長。

○学校教育課長（富川英孝君） 6月会議終了後の大変お疲れの中、お時間賜りましてありがとうございます。本日は白老町学校適正配置の方向性ということで、検討状況、今後の方向性について、皆様にご説明の時間をいただきたいと思いますので、いましばらくお付き合いいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。それでは座って説明させていただきます。

それではお手元の資料、学校適正配置の検討状況及び今後の予定についてというものを御覧ください。

まず、これまでの経緯ということでございます。昨年度基本計画ということで策定をいたしまして、その後対象校というようなことで、萩野、竹浦、虎杖というところが、対象校あるいは検討開始校というような位置づけになったことを受けまして、まずこれまで昨年の秋からPTAの役員の意見交換会、それから今年度入りまして、5月以降PTAの意見交換会ということで説明の機会をいただいていたということになってございます。

②のPTAの意見交換会につきましては、お手元の資料1をもって説明、現状の共有等をさせていただいてきたところでございます。資料の裏面になります。その後、学校運営協議会、こちらのほうも説明の機会をいただきまして、虎杖小学校、竹浦小学校、白老中学校区、白翔中学校ということでそれぞれ5月から6月の中旬にかけて説明をさせていただきました。この間（2）ということで、アンケート結果について資料3に記載がありますが、ここについては、集計がまとまっておりませんでしたので、運営協議会については資料2ということでアンケートの速報値、そのようなものを配りながら説明をさせていただいたと。

虎杖小学校につきましては14日、アンケートがまとまっていなかったということがありまして、保護者意見交換会、資料1のものだけを使っての説明にとどまっているというような状況になってございます。アンケートの結果について本当に簡単にですけれども、ご説明させていただきます。

資料3を御覧ください。調査期間につきましては5月8日から5月16日、対象につきましては先ほど申し上げました萩野小学校、竹浦小学校、虎杖小学校の3校の各保護者となってございます。回答数につきましては73件、全体で124件保護者の方いらっしゃる中で73件回答いただきました。58.9%、児童数に直しますと、全体で153名分の90名ということで、こちらも類似した数字になっておりますが、58.8%の回答を賜りました。内訳となりますが、このうち73件の

うち、萩野小学校が50件、58.1%、竹浦小学校は8件、竹浦小学校の中の57.1%となります。虎杖小学校も15件ということで、虎杖小学校の保護者の62.5%から回答を賜ったというような状況になっております。それぞれ下のほうに在籍校はどこですかということで、やはり人数が多い、萩野小学校のボリュームが大半になっているというような状況でございます。在籍学年につきましては下の表で御覧いただければと思いますが、2年生が少し多いかなということですので、軒並み皆様の学年からいただけたのではないかと考えています。

裏面の適正配置に対する考えということでございます。適正配置については進めるべきか、どちらかというに進めるべきか、あるいは分からない、どちらかといえば進めるべきではない、進めるべきではない、というような5つの項目から質問をしたところ、全体で72%強が進めるべき、あるいはどちらかといえば進めるべきというようなことになっております。もちろん、進めるべきではないというお答えも少ないながらもあったという状況でございます。その内訳となります。下のグラフになりますけれども、萩野小学校、竹浦小学校、虎杖小学校のそれぞれの保護者からの、進めるべき、どうなのだということの割合を示したところ、萩野小学校が非常に高い80%を超えるような形になってございます。竹浦小学校も60%を超えている。一方で虎杖小学校については、40%がどちらかというに進めるべき、分からないというボリュームも大変多くなっているというような状況でございます。

次の4番目になります。適正配置の進め方ということで、「この対象校と検討開始校全て足並みそろえるべきですか。」「それとも2校を先にそろったらそっちでやってもいいですか。」というような、ちょっとふわっとした質問をさせていただきましたが、やはりやるならば3校合意がいいのではないかなというようなことが1番多かったと。例えば、竹浦小学校ではもう、サンプル数少ないですけども、2校先行が上回っているというような状況にはあります。これもその内訳については下の表を御覧いただければというふうに思います。

次のページになります。5番の適正配置の時期ということで、早くやるべきかそれとも時間をかけるべきかというような意図を持って、1、2年以内、3、4年以内、5年以上進めるべきではないというような項目を設定させていただきました。1、2年以内というのが最も多くなっていますが、これは先ほどもお話ししましたように萩野小学校のところができるだけ早くやったほうがいいのではないかなという意見が多くなっています。竹浦小学校、虎杖小学校については、少し、やはり、どうしたらいいかなというのも含めて、3、4年以内というようなことがボリュームゾーンになっているのかなと考えております。

最後になりますが、6、適正配置の課題、要望についてということはありません。それについてはですねやはり通学に関しての不安ということ。要望についてもそれに対するスクールバスの運行をしてくれというようなことが1番多くなっているかなと考えております。

昨日も、広地議員からの一般質問でもお答えさせていただきましたが、その他ということで、今回はいただいた意見そのまま載せさせていただきます。本当に小規模のよさ、あるいは少ないと色々なことができない。本当にやはりそれぞれ、多種多様な意見がございます。このようなことにしっかり耳を傾けながら、今後も進めてまいりたいと考えています。

ころでございます。

1枚目の資料にお戻りください。今後の取組の考えということで、ただいま今度は町内の保育園のほうにもアンケートをとろうと思っています。このアンケートの内容については、学校の規模というか、クラスの人数どれくらいがいいですかというようなことも含めて出していくという予定にしております。

(2) ということで、検討委員会の設置ということで、これも昨日の一般質問の中でもお答えさせていただきましたが、できるだけ、地域、関係者の声を聞きながら進めていきたいなと思っていますので、今想定しておりますのは委員を全体で15名程度、各PTAから2名ほど頂いて6名、それから学校運営協議会につきましては会長さんなどといった方をお願いして、それぞれ3校から1名ずつ3名、それと町内会は、連合町内会ちょっと竹浦、虎杖浜、萩野、石山、北吉原もいろいろありますので、ちょっとここの人選をどうするかというのをまだ思案しているのですが、町連合にお願いして推薦いただくような形で各地区から1名ずついただいてと考えています。あとは保育園の保護者、それと、学識経験者・教育関係者ということで、兼ねた方を1人お願いしようかなと思っています。それと今校長会の会長が全国の僻地複式の事務局など、そのようなことをされていて、そのような部分の造詣も深いということで、オブザーバーで参加いただくことを予定していきたいと考えております。②のスケジュール案ということですが、資料4ということで1枚ものを御覧いただければと思います。

本日、令和7年6月に総務文教常任委員会協議会のほうで、今後の方向性についてご説明をさせていただいた後に、先ほど説明したPTAなど、そのようなところに委員の推薦のお願いをして、7月から検討委員会の設置をしていきたいと、検討委員会につきましては今年度うまくいけばということでご理解いただければと思うのですが、秋頃をめどにある程度集中して進めさせていただいて、もしも統合といいますかそのような合意が図られるのであれば、やはり一定の準備など、そのような部分に係る予算を、新年度予算に入れていくことが可能であれば、そういうものを予定すると。ただこれは、それがならない場合は、しっかり合意をいただくまでやっていこうというふうには思っています。

ですから、破線から下の部分、ある程度方向性が出たときに、改めて議会全員協議会、そのようなところでのご説明の機会をいただきながら、PTAにも説明し、その後、予算要求、統合の準備委員会を設立、それから、私も昨日も見ましたが、平成28年2月に、旧緑丘小学校の閉校式の記念誌といいますか、そのようなものを見ながら考えておりましたが、そのような閉校式、そして、統合して新しい環境でのスタートということになっております。この部分、本当に年限を入れるということは非常にデリケートな問題ですので、我々も本当に地域との理解を得る、その努力をしながら、どういった形で進んでいけるかというのは、皆さんとつくり上げていきたいと考えているということでご理解を賜ればと思っております。端折った説明になりますが、説明は以上とさせていただきます。

○委員長（貳又聖規君） ありがとうございます。

本日は富川学校教育課長と栗田指導主幹、それから加藤学校教育課主査に出席いただいてお

ります。

それで、栗田指導主幹、ちょっと自己紹介というか、今までのご経験やそのようなところなどをとても重要だと思うので紹介してください。

○学校教育課指導主幹（栗田 悠君） 4月より指導主幹として着任させていただきました栗田悠と申します。よろしくお願いいたします。

白老には、社台小学校があったときに着任いたしまして、白老で働いて今年で13年目、社台小学校3年、白老小学校8年、そして虎杖小学校1年ということで、今回、白老町教育委員会で働かせていただくことになりました。今後ともよろしくお願いいたします。

○委員長（貳又聖規君） ありがとうございます。

加藤学校教育課主査。

○学校教育課主査（加藤 肇君） 加藤肇といいます。昨年の9月から教育委員会配属になっております。前職は消防という、何度か議場ではお会いしているのですけれど、よろしくお願いいたします。

○委員長（貳又聖規君） それでは、先ほど一通り富川課長のほうからご説明ありましたが、委員の皆様の方からご質問等あれば承ります。いかがでしょう。

長谷川委員。

○委員（長谷川かおり君） 今、いろいろと資料見させていただいて、まず皆さん、父兄の声が100%こちらのほうには載っていないというところで、やはり丁寧に声を聞いていくということは、今お話ししていく中で、代表の方をいろいろ人選しながら、いろいろと話をまとめていくということなのですが、その中で、人選した方が本当に1学年のお母さん方の声を聞く、そのような機会というのは何か学校側で設けているのかなと。やはりいろいろな話を、私は、たまたま若いお母さんにちょっとお話を聞いたら、いや実は萩野小学校のお母さん方は全然もう来ていいよとウェルカム体制なのだけれども、でも実は竹浦小学校の父兄の方は、何か、「言いたくても言えないような、いろいろなことを聞きたいのだけれど聞けないというか、そのような何かすごく不安でいっぱいなんだよね」と。何かそのような機会を設けてくれたらいいなということもちょっと聞いていたので、たまたまこのような場も設けたので、声を上げたくても上げられないお母さんがいるのであれば、現場サイドのほうで、大きな中で集まってお話しすると、手を挙げて声を出せない方もいると思うので、そのような学校単位などでもいいので、また、何か声を大きく引き上げるそのような体制をちょっとつくってもらえないかなという、そのような意見であります。

○委員長（貳又聖規君） 富川学校教育課長。

○学校教育課長（富川英孝君） そのような声を上げられない方がいらっしゃるということも含めて、まずアンケートというような、無記名の中でのアンケートをお願いしております。これもやはり、今、長谷川委員がおっしゃったように、PTAの代表ではあっても、その裾野までの意見をどこまで拾えるかというところについては限界もあろうかなというふうには思っておりますので、例えばそういったPTAでの臨時の何かしらの会議をやっていただくようなお

願いや、どこかで、中間でこのような今方向性ですが、改めてどうですかということ、アンケートで聞かせていただくなど、そのようなことで、いずれにしても状況に応じて、しっかりと意見を聞くような対応は考えていきたいなというふうに思っています。

私も去年1年と今3か月という形になっていますが、やはり小規模校といいますか竹浦・虎杖ですと、竹浦は14世帯しかないのです。保護者の世帯が。だから、集まっていたとしても4件、5件とか、10件も集まるか。だから本当に、去年実は話がそれてしまいましたが、北吉原の子供たちをバスに乗せるときは、対象者が10何件だったので全部の家を回ったのです。封筒を持って。だからもしかすると、竹浦など、そのようなところであれば、個別にお伺いしての話もできるかもしれないけれど、今そこでハードルを上げてしまうと、ちょっと皆さんに迷惑かつてもとなるので、ただ本当に多様な機会、方法をもって、意見を聞きとれるようにはしていきたいなと思っています。

○委員長（貳又聖規君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 直接当事者でないから、今日委員会協議会ですから、所管事務調査ではないからポイントだけ言います。

前にやっていたかどうか、これ一つとすれば、統合したときの拠点校は萩野小学校に決まっているのか。それによって、先ほど適正配置の考え方が、萩野小学校が多いというけれど、自分の学校に来る、統合するというのは非常に高くなるのです。だからその部分の解釈をちゃんと間違わないようにするのと、さっきスケジュール言ったけれど、やっぱりどこの学校にするということで、そして、それに対してどれぐらいのお金がかかるかちゃんと出さないと、また旧社台小学校みたいになるから。逆転みたいことに、分かるでしょう。

本来は全体の計画をつくって、そこだよというのが筋なのに、本末転倒だったから、そのような政策の形成過程をちゃんと明確に、まずするということが大事だと思うし、過去にこの問題出た時は議会等では、地区の議員やほかの議員から、状況は分かるよ。だけど白老町とすれば統合ではなくて、地域振興を考えて、統合しないという話があったのです。過去には、僕もそのような意見を言ったのだけれど、そのような意味で言った部分、やっぱりちゃんと整理をしておかないと、教育委員会としても統合するための大きな柱がずれてくると思うのです。それはちゃんと整理しておく必要があるのではないかと思います。現地の保護者の考えなどはどうかというのは別にして、一つの政策を進めるためには、そうあるべきだと思うのですがどうでしょうか。

○委員長（貳又聖規君） 富川学校教育課長。

○学校教育課長（富川英孝君） 統合のお話をさせていただくという前提でございましたので今の時点ではっきりどこにするとか、そのようには考えていないといいますか表明しているわけではございません。ただ先ほども言いました、資料3のほうに生の声全部入れてありますというところの中には、萩野小学校で統合する方向であれば、そのようにすべきだし、あるいは竹浦小学校のPTAからは、真ん中なので竹浦小学校でやればいいのではないかというような意見もいただいております。そのような中でこの萩野の萩野小学校でやるというような、

アンケートの中で意見が出たものについては、施設の規模の話をそこではさせていただきました。やはり、虎杖小学校、竹浦小学校というのはもともとが少ない人数の学校ですので、学校の施設規模としてちょっとイメージつきづらいかもしれませんが2,800ないし2,900平米ということになっております。

ただ、一方、萩野小学校はやはりもともと人口もあったということで、学校の施設規模が5,000平米を超える面積があるというようなことで、今後のそのような皆さんを受入れて様々な特別支援やそのような部分の教室も確保しながらと考えると、学校規模としては萩野小学校がやはり優位かなというような話はこの意見交換の中ではさせていただいたという経緯がございます。

ですから2つ目の、どこにするということで、基本計画の後に、実施計画をつくるということが、適正配置はなっておりますので、こういった委員会の議論を通しながらその方向性も含めて、計画としてしっかりまとめ上げていきたいなという思いでおります。

あとは最後の地域振興の部分です。やはり地域振興、学校がなくなると地域が寂れる、それは保護者の声からも出ております。一方では子供をだしにといいますか、犠牲にしないでほしいという意見もあります。ですから、やはり我々ができる部分については、昨日町長からも発言がありましたが、まちとしては、各地域、どこもしっかり振興していくというのはまちの責務といいますか、やはりそのような究極の目標だと思います。ただ一方で、我々のセクションとしては、一旦は子供たちの教育環境ということがどうあるべきかというふうになっておりますので、当然その両方を見ながらというふうにはなりますけれども、我々サイドとしてはやはり少し子供たちにとってどういう教育環境がいいかというようなことでありますけれども、ただそれが、今からちょっとどこでやる、どこでやらないというのが決まる前に、この学校の校舎はどうしようという議論をするのは、逆に地域に対しても少し失礼な部分があるのかなというような思いもありますので、やはりこの議論をしっかりまとめつつ、その方向性が出てきたときには、このようなまちに対しては、どのような振興策をしていくかというのは並行して、しっかりと考えていくということが必要かなというふうには今は思っております。

○委員長（貳又聖規君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 統合の意見が集約すると言うけれど、やはり施設を、拠点校どこにするかによってかなり変わってくると思うのです。その辺どうですか。

私は、ただ何もないから統合だ統合だと、息子に背広買えって言ったって、既製品なのかオーダーなのかどこで買うのかも分からないのに買えって言ったって。どうですか広地委員。

○委員長（貳又聖規君） 広地委員。

○委員（広地紀彰君） ご指名いただきまして、ちょっと私、統合の計画の計画策定校のPTAの会長なので、ちょっと具体的に意見は多少控えて見解だけにしたいと思うのですが、今まず、前田委員がおっしゃっていただいたように、統合はまちづくり、学校は地域の核だというのは、これはもう教育委員会のほうはもちろんのこと、4か所で、今、本当に地域と学校も1つだと。そのような考え方を展開される中でそれを消してしまうというのは、本当に慎重にしなければいけないと。

だから、もちろん今の課長の答弁も今、前田委員長の議論も拝聴していました。確かにまちづくりとしては大事だけれど学習環境という観点で、まずはこの計画は説明させていただいたという趣旨もよく分かるし、あと今回のメンバーも拝見しましたがけれど、地域の声も尊重するという事は形になっているのではないかなと評価しています。ただ、アンケートをまず取り方をしてこのようなとり方には当然なるので、私も理解できてるいりですけれど。

今前田委員のお話も若干関連があるのですけれど、萩野小学校の保護者は圧倒的に賛成なのです。それ当然です。恐らく念頭には萩野小学校に統合なるだろうと思っていますし、むしろ萩野小学校だって人数もうちょっといたほうがいいと思っていますから、萩野小学校のPTA会長を初め私も保護者の方、たくさんの方に聞いています。だから、ちょっととり方、これを見て圧倒的に賛成が多いですと、当然このような捉え、多分教育委員会もされていないと思うのですが、その自由意見もちょっと全部精読し切れてはいないのですが、どれだけ合意を勝ち取っていくかが問われるのかなと。今の課長の答弁、ちょっとほかの委員の皆さんの意見もちょっと聞いてからにしようかなと思ったのですが、その思いを形にさせていただきたい。丁寧なことを、丁寧な姿勢を訴えているのはよく分かります。町長も非常に踏み込んだ答弁いただいております。その思いは、受け止めていきたいと思いますが、それを形にしていかなければいけないと思っています。

○委員長（貳又聖規君） 富川学校教育課長。

○学校教育課長（富川英孝君） 文部科学省の部分でも、やはりどのような学校にしていくかということで御理解を得るということも一つ重要な視点だということは重々理解しているというような形ですので、何とかそういった部分をしっかりと示しながら、皆さんとつくり上げ示していくというようなことでなろうかなと思っています。今広地委員が言う、やはり萩野の雰囲気は自分がどっかに行くとは思っていませんので、少しでも、自分ところに人が来てくれればいいなというふうになっているということです。

虎杖浜も、なるとすればやはりスクールバスで行かせてくれるのという意見はやはりあったかなというふうに思います。ただ竹浦は、実は海の子保育園などに通われている保護者の方もいらっしゃるの、虎杖小学校と統合したいなとおっしゃる保護者の方もいらっしゃる、あるいは、やはり萩野に、中学校区がもう萩野になるので、お兄ちゃんが白翔中学校に行ったりしているので、そのような御家族というか、保護者の方は、萩野小学校に早く行きたいみたいな意見もあると。だからその一つ一つの意見をどのように、結局、萩野小学校を入れて多数決をやったら、恐らく今すぐでももう萩野小学校に決まってしまうかなというふうには思いますけれども、私もこの間、竹浦小学校の運動会も出席させていただきました。19人での全員リレー、やっぱり体の差、男女の差、そのようなものもあって、校長先生もおっしゃっていましたが、バトンゾーンをできるだけ、あとはもうチームでどこまで誰に任せるか。だから6年生が150メートル走って1年生は30メートルしか走れないなど極端な話ですが、そのようなこともやりながら、できるだけ切磋琢磨というか、競い合う環境もつくり上げていると。ただやはり、そのような中で人数の厳しさというのは逆に浮き彫りになるかなあというふうにも

感じたところですが、そのような中でやはり、どこがいいのだというような部分も含めて、まず、本日お時間いただいたのは、その検討をする場をつくらせていただきたいということの、事前のご了解をいただければということでしたので、その内容については委員の皆さんと話しながら、しっかりと詰めていきたいなというふうに思っている次第です。

○委員長（貳又聖規君） ほかの委員はいかがですか。

佐藤委員。

○委員（佐藤雄大君） 佐藤です。様々な議論を聞いて、懸念点であったり不安の解消みたいなところが意見にも書かれていたので、それ、不安の部分であったり懸念点を一つずつ解消して進めていくべきかなというふうに思います。過去2回ですか、中学校と小学校の統合があったと思いますので、その反省というか、メリットであったりデメリットであったり、反省点等も踏まえて、先ほども皆さんからありましたけれど丁寧に対話して、ある程度時間はかかると思いますけれども、合意形成に励めるようにしていただければなというふうに思います。あとはやはり課長からも答弁ありましたけれども、子供たちの教育が最優先に考えるべきだというふうに思いますので、その子供ファーストで取り組んでいていただきたいなという意見です。

○委員長（貳又聖規君） 森山副委員長。

○副委員長（森山秀晃君） 今アンケートもとって、今後の進め方なども示していただいて、やはりこれ、統合となると、それぞれの思い、地域への思いもそうだし、学校への思い、その学校を卒業して自分の子供を同じ学校に入れてという保護者の方も多いと思うので、なかなか早期に話をつけるというのは難しいところなのかなと思います。みんなの意見を全部一致させるというのも難しいのかなと思うので、先ほどの委員のことから、何人というところ、それぞれの方々に意見ある程度集約していただいて、なるべく不満が出ないようにというか、それぞれが統合してよかったと最終的には思えるような、スケジュール感や条件というところで、統合に進めて、結局統合しないといけないと思いますので、統合に進めていけるような格好をとっていただければなと思います。

○委員長（貳又聖規君） では、ちょっと私のほうから最後、今、各委員から出されました。

私も富川課長も白老で生まれ育って、小学校、中学校と行ってますから。やはり私が心配なのは、設置はいいのです。ただ、今萩野小学校、非常に荒れているというふうに聞いているのです。荒れている。そのようなときに、また、少人数の子供たちが来たときに、またそれだけでも、子供たちの孤立感などがこう出てくるわけです。ですから、そのようないじめがない、しっかりと受け入れる環境づくり、やはりそこも併せてやらなければ保護者は安心して送り込めないだろうというふうに思いますので、そちらもしっかりと対応していただければというふうに思います。これは一言だけいただきたいと思います。

富川学校教育課長。

○学校教育課長（富川英孝君） やはり各年度によって子供たちの個性といいますか、いろいろなキャラクターの子供たちがおりますので、その学習集団といいますかそのようなところがどのようになるかというところは、ちょっと本当にいろいろな部分があるかなというふうに

思っています。ただやはり我々としては、今回の答弁でもさせていただきましたが、竹浦小学校の少人数の学習でも、それはそれでよさは確実にあると思うのですが、学校管理、運営していく先生方の体制です。それが3人になったり、2人になったり、見学旅行に行って学校に1人残っていて、何かあったときにどうするのかなど、そのような学校の危機管理、そのような部分、あるいはやはり多様な先生方が子供たちにしっかりと目を向けてあげられる環境というか、そのようなことを考えていきたいなというふうに思っています。

萩野小学校は今児童が105人いるのですが、普通学級の生徒が100人を切ったということで、教務主任が1名減になっている。やはりそのような、私も今年の12月、3月から人事の異動のところで改めて分かったのですが、児童生徒等の人数で教職員の配置、もうばんばん切られてしまうのです。そこで、やはり学校の先生方の人数をしっかりと確保するためには、一定のボリューム感の児童生徒数が必要だというのは、我々の中ではちょっとここは一貫した考え方であるかなというふうに思っていますので、そのような中で、やはり荒れているだとか、環境をつくっていくためには、1人でも多く、先生方を配置できるという環境をつくっていくことが大事かなというふうに思っていますので、その辺も含めてしっかり検討を進めさせていただければというふうに思っております。

○委員長（貳又聖規君） ほか、よろしいですか。

〔「よろしいです」と呼ぶ者あり〕

◎閉会の宣告

○委員長（貳又聖規君） それでは、総務文教常任委員会協議会をこれにて閉会いたします。

（午後 3時33分）